

AGU fall meeting 2018 報告書

氏名：小林 勇貴

所属：三好研究室（修士 2 年）

滞在期間：平成 30 年 12 月 9 日～12 月 15 日

滞在先：ワシントン DC

滞在国内：アメリカ

この度、私はワシントン DC で開催された American Geographical Union (AGU) fall meeting に参加させて頂きました。国内学会とは違い、国際学会で、さらにアメリカで開催ということもあって、とても多くの方が参加されていました。また、地学や気象学などの様々な分野のセッションがあり、自身の分野の発表がない日でも、楽しむ事が出来ました。

今回のポスター発表では、”Investigation of the magnetic neutral line region with the frame of two-fluid equations: A possibility of anomalous resistivity inferred from MMS observations”というタイトルで行いました。今までに、様々な磁気圏を観測する衛星が、磁気リコネクションの観測を行ってきました。しかし、リコネクションの高速化に重要な役割を果たしている異常抵抗のメカニズムは解明されてきませんでした。今回、私が発表した内容は、その異常抵抗のメカニズムを最新の衛星であるMMS衛星のデータを用いて、調べたという内容です。多くの海外の方が、私のポスターを見に来ていただきました。その中には、以前MMS衛星のチームミーティングでお会いした方もいらっしゃいました。発表を通して、私の英語力がまだまだ不足しているということを実感しました。今年のAGUに参加した際も、同様の感想を抱きましたが、今回を英語の論文を執筆したこともあり、少し自信があったのですが、残念ながら、まだまだでした。しかし、質問して下さった方は、みなさん私が英語を聞き取れなかった際は、ゆっくりと、何度も話して下さって、議論をすることが出来ました。特に、私と同じくMMS衛星のデータを用いて、低域混成波帯の周波数に着目しているポスター発表を行っていたZ.Vörös氏はとても重要な議論が出来ました。彼は、MMS衛星の観測データを解析して、一部の低域混成波帯の擾乱が、低域混成ドリフト波であることを観測から示しました。彼からは、この周波数帯の波動解析の手法や、最新の情報について教えてもらうことが出来ました。

以上のように、様々な経験を今回の海外出張で得ることができ、非常に充実したものでした。今回、発表の機会を与えてくださった若手海外支援プログラムとその関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

<指導教員>

三好由純教授